

日本経済新聞社主催ウェビナー
【NIKKEI MESSE PREMIUMCONFERENCE SERIES】に登壇しました。

【WEB開催】参加無料(事前登録制)

NIKKEI MESSE

★
PREMIUM CONFERENCE SERIES
VUCA時代のBCP

～増大するリスクに備えた組織レジリエンスとは～

主催：日本経済新聞社

2023年6月29日(木)に日本経済新聞社が主催するウェビナー【NIKKEI MESSE PREMIUM CONFERENCE SERIES】VUCA時代のBCP ～増大するリスクに備えた組織レジリエンスとは～にて、当社は【BCP策定時、見落とされがちな通信インフラの重要性と確保の方法】をテーマに講演しました。

ウェビナー詳細: <https://messe.nikkei.co.jp/project/pcs230629/>

日経イベント&セミナー: <https://events.nikkei.co.jp/tag/pcs/>

アーカイブ動画: <https://messe.nikkei.co.jp/project/pcs230629/>

(当社の講演は02:00:00頃から始まります)

当社は本講演で、過去の災害時の状況を振り返った上で、通信事業者の観点から特定の固定回線や携帯電話回線に依存しない、安定した通信確保の具体的な対策や重要なポイントについて事例を交えてご紹介しました。

災害時の通信確保のポイント

- 音声に頼らない、様々な通信手段の確保
- 単一の事業者に依存しない通信の確保
- 災害発生後復興まで、長期にわたるインフラの提供
- 避難所における通信手段の確保

災害発生時にも活用できる
堅牢な通信手段を確保することが必要

普段使いの必要性

非常時のみ使用する場合、想定されるトラブル

- 使い方に慣れていない
- 事前の確認ができない

定期的な安否確認訓練への活用
防災無線



活用されなかった設備・備蓄の教訓
「フェーズフリー」



台風被害時、周知が徹底されず
活用されなかった設備の例
2019年 千葉県・備蓄発電機 100台超
2022年 静岡県・災害用貯水槽

震災や通信障害発生時、企業や自治体において通常業務の継続のみならず連絡手段や情報収集の手段としての「通信インフラ」が非常に重要です。災害直後の初動対応が終わると、次は復旧・事業継続の局面を迎えます。近年のDXの流れや、インボイス制度の開始など、現在の企業では情報システムを活用する業務が中心となっています。社内システムを活用してビジネスを維持・継続し続けるためには、ネットワーク機能を維持しておかなければなりません。そのため、企業BCPにおいて、通信を途切れさせない、途切れてしまったとしてもすぐに復旧し、業務を再開するために、堅牢な通信手段を確保しておくことが重要です。

「日常」と「非常時」とを切り分けて、普段使っているものが備えになる事例や普段使いの必要性を紹介しています。

講座の資料ダウンロードをご希望の方は下記よりご入力ください。

<https://bit.ly/20230629seminardocument>

普段使いできる災害用ルーター スカイベリーpro : <https://skyberrypro.jp/>

<本件に関するの問い合わせ先>

a2network 株式会社 広報・マーケティング部

Tel: 03-5425-8777

Email: contact@a2network.jp